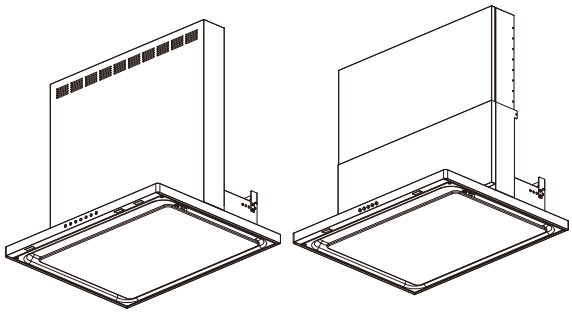
取付・設置説明書

WATANABE
Manufactory Company Limited

スリム型レンジフード
（シロッコファン）



誤った機器の設置を行った場合の危害・損害の程度を、次のように区分しています。 いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。	
⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	使用者が安全に快適に使用していただくために理解していただきたい内容です。


警告・注意


禁止


必ず守る


分解禁止


アースする


ぬれ手禁止


水ぬれ禁止


接触禁止

設置される方へ（この『取付設置説明書』を設置前に必ずお読みください。）

◎設置前に「取付設置説明書」の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
（この取付設置説明書に記載されていない方法で設置され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますので注意してください。）
◎本製品は、一般家庭用です。業務用としては設置しないでください。
◎製品の移動や設置時は、万一のケガ防止のため手袋をして作業を行ってください。
◎設置が終わりましたら、（設置後の点検確認）のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。

⚠警告


必ず守る
この「取付設置説明書」に従い、有資格者による正しい工事を行う。
大工工事・・・設置のための下地工事など
配線工事・・・コンセント設置など
管工事・・・・排気ダクト配管、レンジフードからの排気ダクト接続など。


必ず守る
排気工事などは、建築基準法、市・町・村の条例、消防法などの関連法律に準じて行う。


必ず守る
電気配線工事は電気設備技術基準や、内線規定に準じて行う。
配線工事は電気工事士の資格が必要です。


必ず守る
設置後は別添の「取扱説明書」に従い、安全上のご注意と使いかたをお客さまに説明する。
誤った使用をされた場合、重大な事故の原因になります。

1．別添の『取扱説明書』に従い、使用上の注意事項・正しい使用方法を説明してください。
2．『取扱説明書』とこの『取付設置説明書』をお客さまに渡していただき、保管をお願いしてください。

もくじ

安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・ 1～2
開こん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
各部のなまえ ・・・・・・・・・・・・・・・ 4
外形寸法図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
取付設置前に ・・・・・・・・・・・・・・・ 6
電気工事について ・・・・・・・・・・・・・・10
取付設置手順 ・・・・・・・・・・・ 11～21
設置後の点検確認 ・・・・・・・・・・・・・22

安全上のご注意(必ずお守りください。)

⚠警告

分解禁止 **修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理は行わない。**
発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

必ず守る **排気工事を行う場合、建築基準法（同施工令）および消防法などの関連法規に従って、取付設置する。**
火災などの原因となります。

必ず守る **電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭く。**
火災の原因になります。

必ず守る **電源プラグは根本まで確実に差し込む。**
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

ぬれ手禁止 **ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない。**
感電の原因になります。

必ず守る **電源コードは本体や排気エルボ、排気ダクトと離して固定する。**
火災などの重大な事故の原因となります。
詳しくはもよりの消防署に問い合わせてください。

必ず守る **レンジフード本体と排気ダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃物を使用して可燃物を覆う。**
火災などの原因となります。
詳しくはもよりの消防署に問い合わせてください。

禁　止 **レンジフードの壁への埋め込みはしない。**
漏電した場合、発火による火災の原因になります。

必ず守る **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または、金属板張りの木造の建築物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付ける。**
漏電した場合、火災の原因になります。

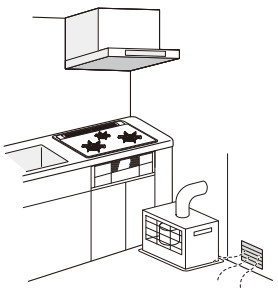
アースする **アースを確実に取り付ける。**
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

禁　止 **電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。**
感電・ショート・発火の原因になります。

禁　止 **延長コードは使わない。**
発火による火災の原因になります。

水ぬれ禁止 **水をかけたりしない。**
発火による火災の原因になります。

必ず守る **自然排気型のストーブを設置されている場合は、レンジフード使用時にストーブの排気口から逆流しないよう、空気の取入口に配慮する。**
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因になります。



⚠警告

禁止 **コンセントや配線器具の定格を超える接続はしない**
たこ足配線などで定格を超えて発熱し、火災の原因になります。

禁止 **電源コードをキズつけたり・無理に曲げたり・引っ張ったり・ねじったり・たばねたり・高温部に近づけたり・重い物を載せたり・挟み込んだり・加工したりしない**
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

禁止 **交流100V以外では使用しない**
火災・感電の原因となります。

⚠注意

必ず守る **十分強度のあるところで確実に固定する**
強度不足の場合は補強する
落下によりけがなどの原因になります。

必ず守る **部品の取り付けは確実に行う**
落下によりけがなどの原因になります。

必ず守る **部品の取り付けは両手で行う**
落下によりけがなどの原因になります。

必ず守る **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く**
感電やショートして発火することがあります。

禁止 **コンロ上以外では使用しない**
故障の原因になります。

必ず守る **取付設置のときは、厚手の手袋を使用する**
金属部品などの切り口・本体の突起・角などでけがの原因になります。

必ず守る **製品を固定するネジは付属品を使用する**
落下によりけがなどの原因になります。

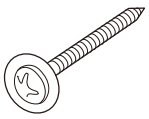
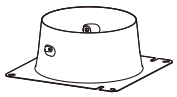
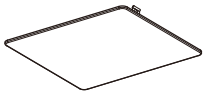
必ず守る **配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って、確実に行う**

開こん

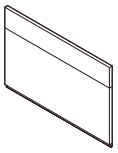
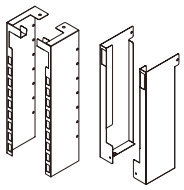
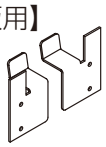
付属品の確認

・次の付属品が同こんされています。不足のないことを確認してください。

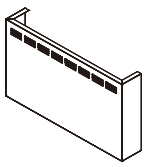
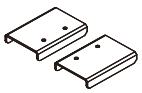
スライド幕板仕様、固定幕板仕様A・B、同時給排仕様共通部品

部品名・形状	固定用ネジセット		排気口具	整流板	取扱説明書 取付設置説明書
	座金付き丸木ネジ（4.1×50）【本体用】	タップタイトネジ（M4×10）【排気口具・エルボ用】			
					
個数	6	4	1	1	各1

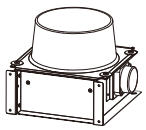
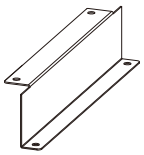
スライド幕板仕様

部品名・形状	スライド前幕板	塞ぎ板セット				
		丸木ネジ（3.8×13）【塞ぎ板上・下用】	タップタイトネジ（M4×10）【スライド前幕板・塞ぎ板下用】	塞ぎ板上（左･右） 塞ぎ板下（左･右）	引っかけ金具（左・右）【スライド前幕板用】	すき間テープ【塞ぎ板上用】（左・右兼用）
						
個数	1	6	8	各1	各1	1

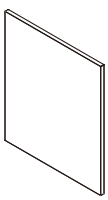
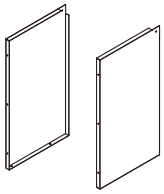
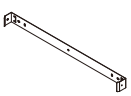
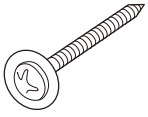
固定幕板仕様A

部品名・形状	前幕板	幕板押え金具	なべネジ（M4×20）	平座金（φ4×φ15×t1）
				
個数	1	2	4	4

同時給排仕様

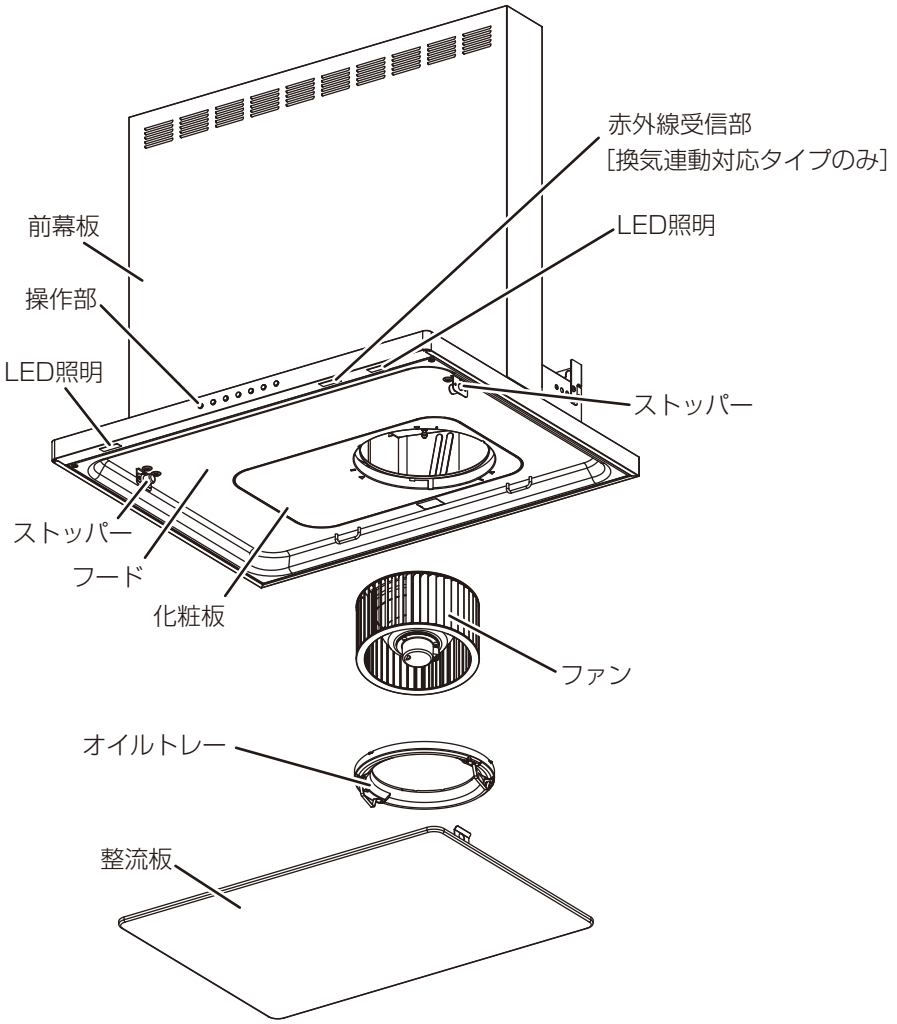
部品名・形状	タップタイトネジ（M4×10）	電動シャッター【排気用×1・給気用×1】	浅型上給気取付脚
			
個数	8	2	2

固定幕板仕様B

部品名・形状	前幕板	横幕板（左・右）	幕板吊り金具	座金付き丸木ネジ（4.1×50）	タップタイトネジ（M4×10）	ラミメイトネジ（M4×10）
						
個数	1	各1	1	4	8	4

各部のなまえ

※イラストは、左排気仕様で説明しています。
　右排気仕様の場合は、化粧板の開口、ファンの位置が左右逆になります。



お願い

・塗装部分やステンレス部分(ステンレスタイプ)などに直接さわると、指紋がつくことがあります。
　施工の際は、手袋を着用してください。

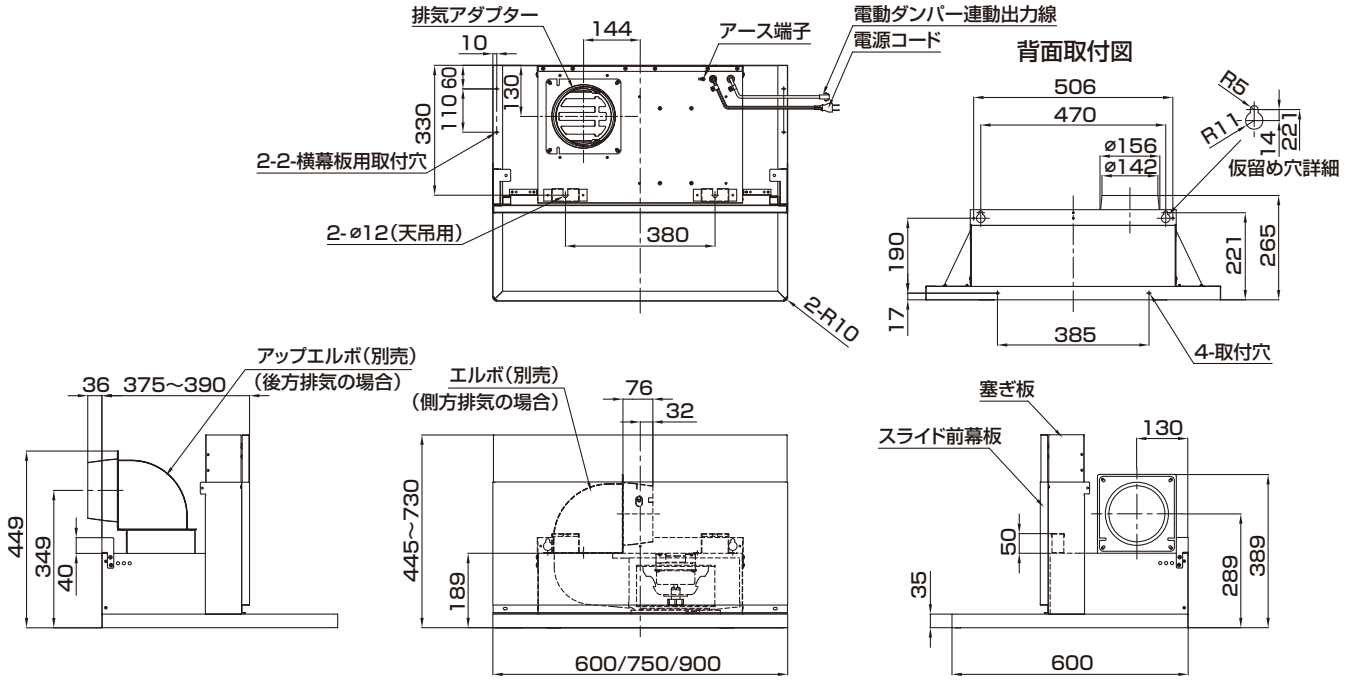
外形寸法図

※記載の寸法図は、左排気仕様になります。右排気仕様の排気位置は中心線に対して反対の位置になります。

＜単位：mm＞

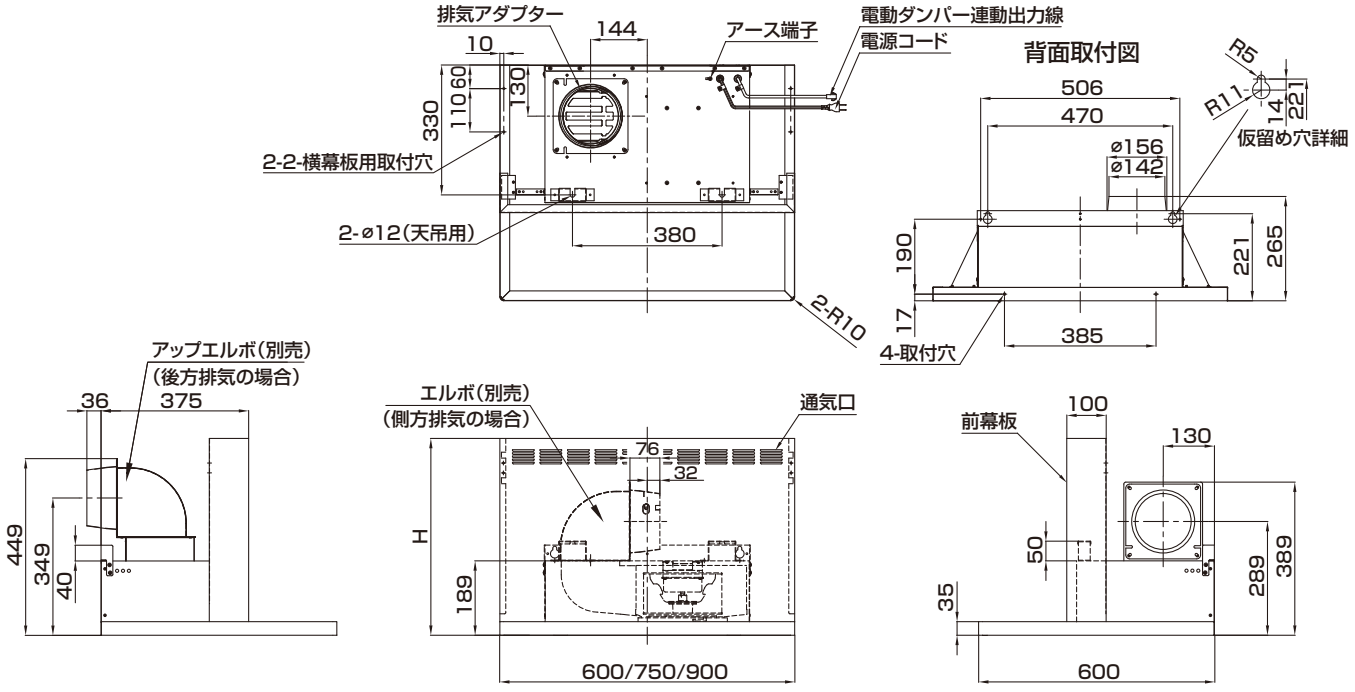
※特注仕様の場合、各寸法が異なる場合があります。

[スライド幕板仕様]



・スライド幕板/塞ぎ板の調整範囲：445~730

[固定幕板仕様]

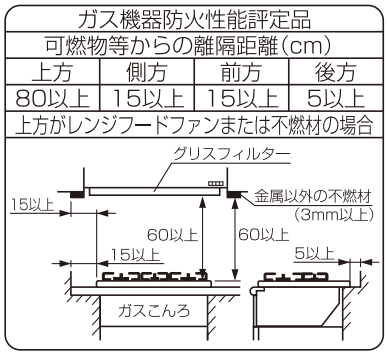


取付設置前に

◇設置する前の確認

◎調理機器の真上80cm以上の位置に取り付ける
※調理機器が防火性能評定品（調理機器に下図ラベル貼付品）の場合は、60cm以上で設置が可能です。
※市・町・村の条例、消防法などにより規制される場合がありますので注意してください。
あまり高すぎると吸い込みが悪くなります。

防火性能評定品ラベル例



◎レンジフードの幅は、調理機器の幅以上のものを使用する

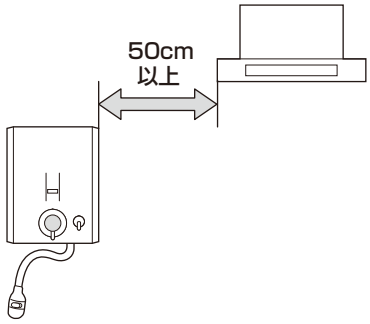
◎レンジフード前面が調理機器前面より後方にならないように設置する
排気性能が低下します。

◎排気ダクトで排気するときは、排気抵抗の確認をする
屋外壁面の排気口に取り付けるパイプフードやベントキャップは排気抵抗が小さいものを使用してください。
排気性能が低下します。（防鳥網（防虫網）付き、出口開口が狭いもの、ドレン返し付きなど）

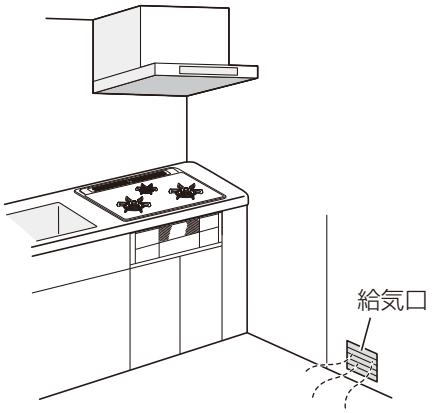
◎排気抵抗が上がる配管はしない
・非常に長い排気ダクト配管
・径が細い排気ダクト（接続ダクト部など）
・極端に屈曲した排気ダクト配管
・多数回の曲げがある排気ダクト配管
排気性能が低下します。

◎寒い地域では、排気ダクト内が結露し、本体内に結露した水が流れることがある
排気ダクトに断熱材を巻くなどの対応をしてください。

◎本機器の下にガス開放式湯沸器（小型湯沸器）を取り付けない
※側方に50cm以上離して取り付けてください。
ガス開放式湯沸器（小型湯沸器）の真上は、高温になるため、故障の原因となります。



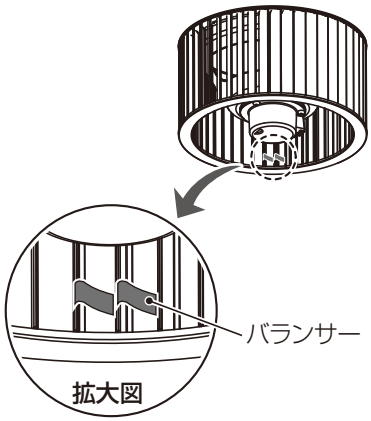
◎空気の取入口（給気口）を設ける
空気の取入口の大きさは、約240cm²以上にしてください。
給気が不足すると、排気性能が低下したり、レンジフードに異音・振動が発生する原因になります。
とびらが開きにくくなったり、すきま風の音が大きくなるなどの現象が発生します。



◎**排気ダクトの不燃処理をしてください。**
排気ダクトを50mm以上の不燃材料もしくは20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
施工要領は、各メーカーの指導書・要領書に従ってください。

◎**レンジフード取付面(壁補強部)に固定用のネジが確実に届くことを確認してください。**
・長さが50mmの固定用ネジが付属されています。
・壁下地に石膏ボードなどがある場合は、石膏ボードなどの厚さを確認して、固定用ネジが確実に取付面(壁補強部)に届くことを確認してください。
・レンジフードと取付面との間には不燃材を使用してください。

◎**ファンに取り付けてある部品は絶対に外さないでください。**
ファンの回転のバランスを調整している部品です。
取り外すとバランスがくずれ、吸い込みが悪くなったり、異音、故障の原因となります。



【換気連動システム　換気連動対応タイプのみ】

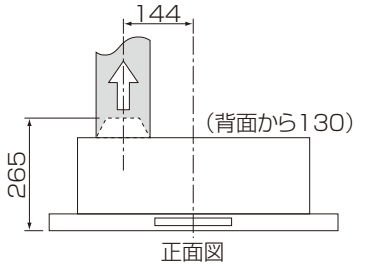
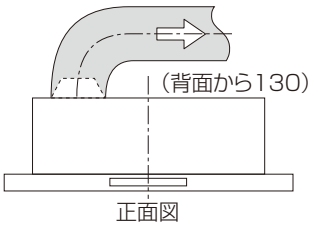
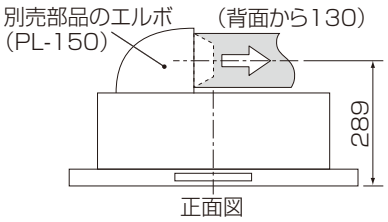
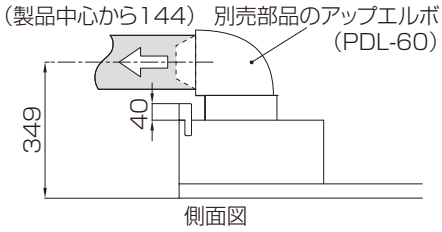
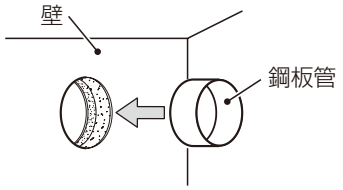
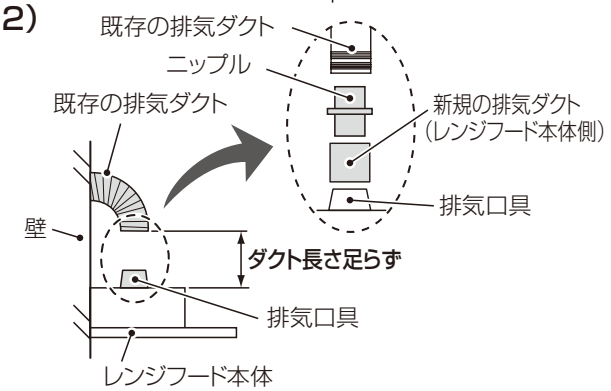
◎**照明器具の受信部から1m以内に設置された場合、換気連動システムが正常に動作しないことがあります。**

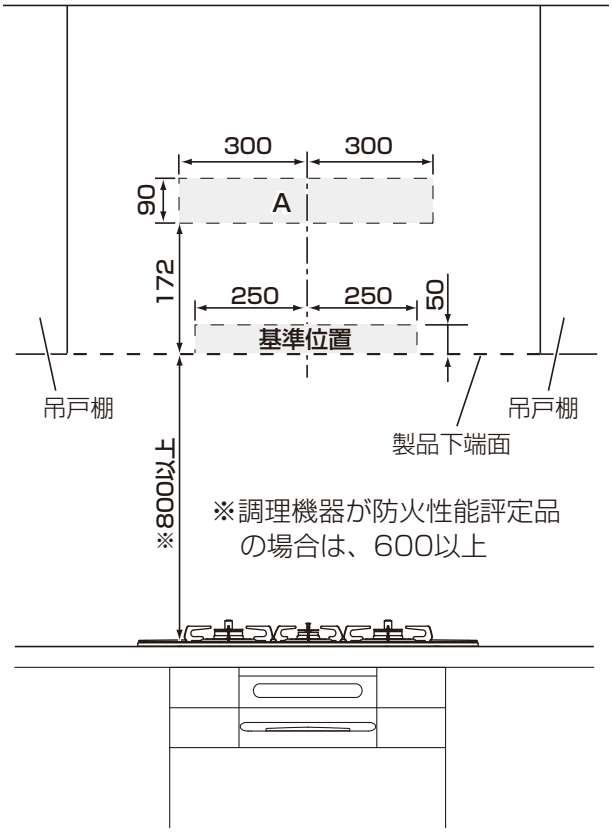
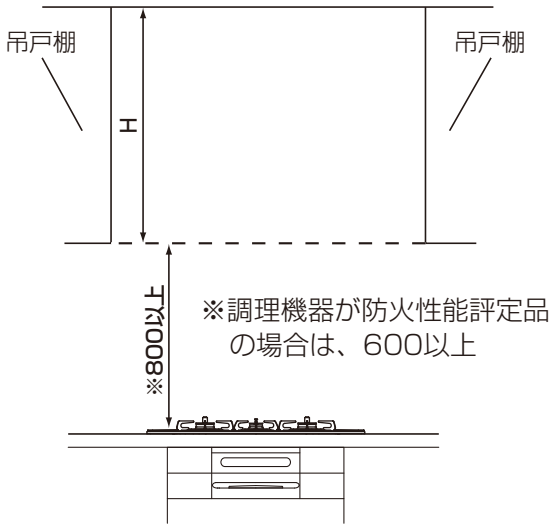
◎**直射日光が当たるなど、極端に明るく照らされる場所には設置しないでください。**
調理機器側からの赤外線の信号受信が妨げられ動作しないことがあります。

◎**本体や排気ダクトが他の電気機器と接触しないように取り付けてください。**
照明などの電気機器のノイズにより、調理機器側からの連動ができない場合があります。

◇準備をする

1）養生シートなどで現場の床を保護する。
2）必ず機器用のブレーカーを切る。
3）必ず厚手の手袋を使用する。
4）アース線、アルミテープ、M4.1木ネジ(追加分)は、現地で調達する。

設　置　手　順	説　明　図
1.排気方向、排気ダクト位置の確認 外形寸法図(5ページ参照)を確認し、排気方向を確認する。 **① 上方左排気** **② 上方右排気** **③ 側方左排気** **④ 側方右排気** ※壁側の排気ダクトの位置により、別売部品のエルボ(PL-150)が必要です。 **⑤ 後方左排気** **⑥ 後方右排気** ※後方排気をする場合は別売部品のアップエルボ(PDL-60)が必要です	**①・②上方排気(左・右)**　＜単位：mm＞  **③・④側方排気(左・右)**   **⑤・⑥後方排気(左・右)** 
2.壁側の排気ダクト接続について **1）壁側に排気ダクト用の穴が無い場合** ・取付位置およびレンジフード本体との接続位置を決め、壁にφ160程度の穴を開ける。 ・φ150パイプ(鋼板管)を埋め込みパイプ周辺をモルタルなどで埋めて仕上げる。 **2）既存の排気ダクトを使用する場合** ・レンジフード本体と接続位置を決め、長さが足りるか確認する。 長さが足りない場合は、ニップルを使用して延長する。 ※フレキダクトを使用する場合は、もよりの消防署に問い合わせてください。	1）  2） 

設　置　手　順	説　明　図
3.設置位置の確認と設置面(壁)の下地の確認 製品の設置面(壁)に補強板(桟)やボードなど、設置する強度があるか確認する。 補強板(桟)やボードが無い場合は、製品ネジ固定力所(右図A部)全てに製品が固定されても十分耐える補強を行う。 ※有資格者(表紙参照)が行ってください。 **木質壁の場合** ・板厚が20mm以上の場合は、直接壁に取り付ける。 ・板厚が20mm未満の場合は、壁に補強板を埋め込むなどの補強を施し、レンジフードを取り付ける。 **コンクリート・タイルの場合** ・あらかじめ補強板が壁に埋め込まれているか確認し、埋め込まれていない場合は、カールプラグなどを使用し、固定する。 ※レンジフード本体の取付用ネジは50mmのものが付属されています。 レンジフードの取付面の木部まで取付用木ネジが確実に届いていることを確認してください。 下地に石膏ボードなどが貼られている場合は、石膏ボードの厚さを確認し取付用木ネジが確実に木部に届くことを確認してください。 **土壁の場合** ・柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込む。	**本体は十分強度のあるところにしっかり取り付ける。** **強度不足の場合は、補強する。** A部：製品固定ネジ位置　＜単位：mm＞  ※調理機器が防火性能評定品の場合は、600以上
4.設置高さについて スライド前幕板仕様は **H=445～730mm**に対応しています。	 ※調理機器が防火性能評定品の場合は、600以上

電気工事について

電気配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って有資格者が行うこと

1. 電源仕様

⚠警告

必ず守る **定格15A以上のコンセントを単独で使用する**
他の機器と併用すると分岐コンセント部の異常発熱により発火するおそれがあります。

・本機器は100V仕様、50Hzと60Hzは共用。
・電源回路は100V・15A以上の専用回路を設ける。
・コンセントは125V・15Aのものを設ける。

⚠警告

必ず守る **電路に漏電しゃ断器を設置する**
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
※主幹に漏電しゃ断器が設けてある場合は、漏電しゃ断器を新設する必要はありません。

2. アース線の取り付け

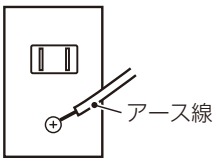
・アース工事を必ず行う。

⚠警告

アース必要 **アース線を確実に取り付ける**
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

◎アースターミナル付き埋込コンセントにアースする場合

・アース線を確実にアースターミナルに接続する。



◎炭素接地棒でアースする場合

・アース工事は必ずお買い上げの販売店または、電気工事店に依頼する。
（電気工事士の有資格者がD種接地工事をするよう法令で定められています。）
・ガス管・水道管・電話のアース線・避雷針のアース線には絶対に接続しない。
（法令などで禁止されています。）
・設置場所の変更や転居の際には、再度アースの取り付けをする。
（アース工事は有料ですが、ご了承ください。）

3. 連動ダンパーの電源について（連動ダンパー使用時のみ）

◎下記の仕様を満足する場合、レンジフードの運転と連動させて、連動ダンパーなどの開閉をおこなうことができます。

・連動ダンパーは現地調達品です。
・連動ダンパーとの配線は、別売部品連動ダンパー中継線を使用してください。
※配線方法は、連動ダンパー中継線の説明書を確認してください。

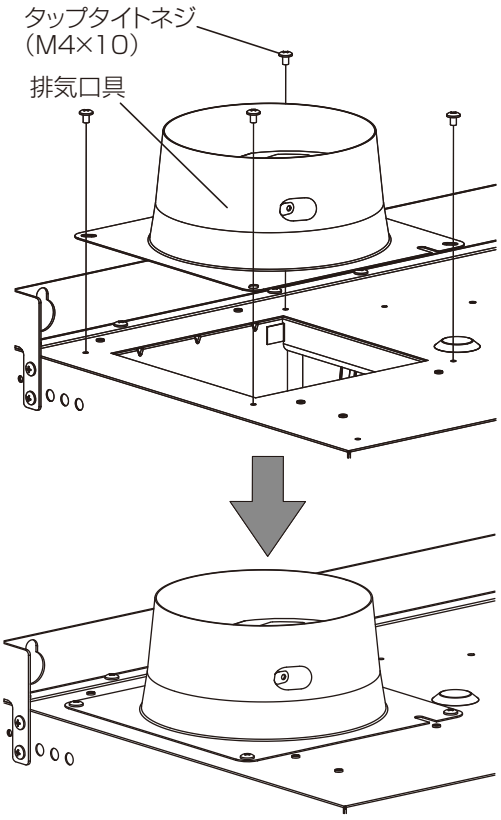
連動ダンパーなどの仕様	・AC100Vの入力で動作し、起動時の電流が1A以下 ・2芯の出力線が接続可能なもの

取付設置手順

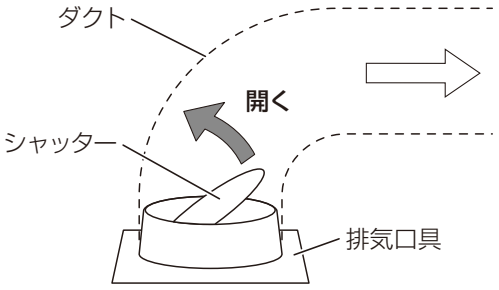
設　置　手　順	説　明　図

1.排気口具の取り付け

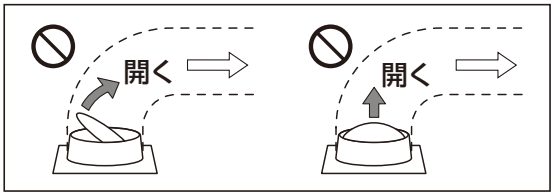
・排気の方向と排気口具のシャッターの向きを確認して、本体排気口に排気口具を付属のタップタイトネジ(M4×10：４本)で固定する。



[排気口具のシャッターの向き]



接続不可なシャッターの向き



シャッターの向きを右図の通りに行ってください。間違った向きに接続すると、排気抵抗が大きくなったり、シャッターが排気ダクトに引っかかる場合があります。

⚠注意

禁止 **電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない**
ネジが利かなくなります。

[エルボを使用する場合]　※[エルボ(PL-150)]は別売部品のため付属されていません。

設　置　手　順	説　明　図

2.エルボの取り付け

1）エルボと排気口具の取り付け

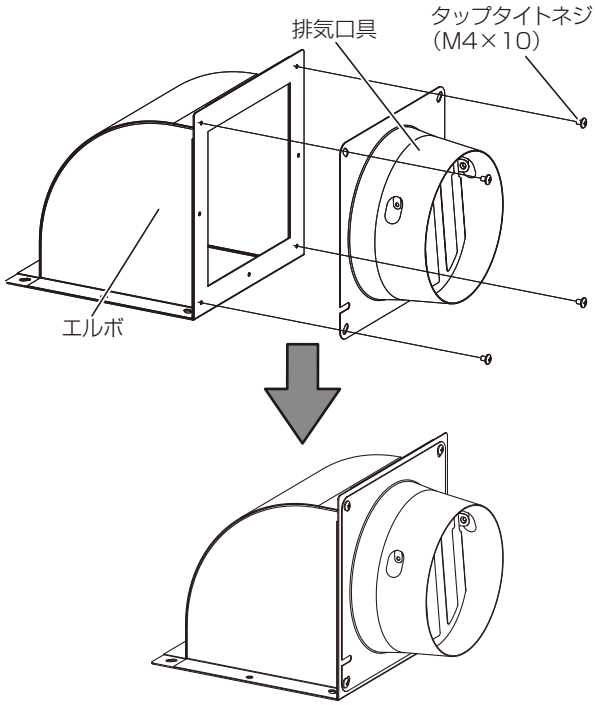
・排気の方向と排気口具のシャッターの向きを確認して、別売部品の[エルボ(PL-150)]と排気口具を固定する。

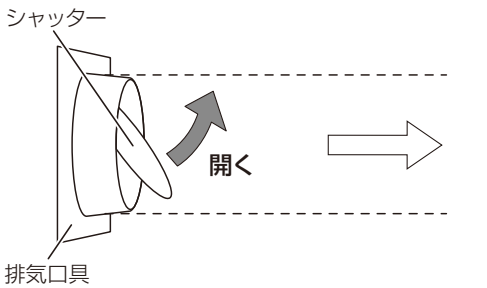
※エルボと排気口具の固定は、[エルボ（PL-150)]に付属のタップタイトネジ(M4×10：4本)を使用してください。

※シャッターの向きを右図の通りに行ってください。間違った向きに接続すると、排気抵抗が大きくなったり、シャッターが正しく閉まらない場合があります。

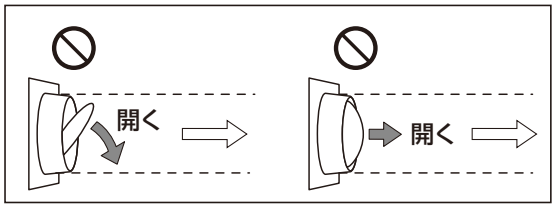
⚠注意

禁止　**電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない**
ネジが利かなくなります。



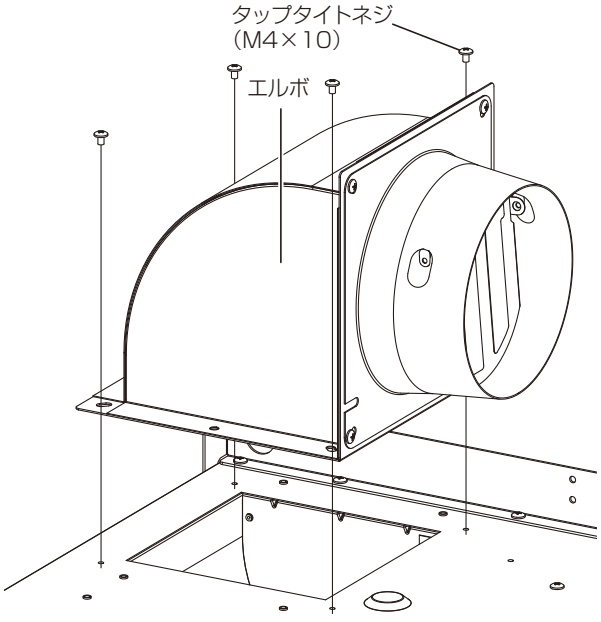


接続不可なシャッターの向き



2）エルボと本体の取り付け

・本体排気口に排気口具が付いたエルボを付属のタップタイトネジ(M4×10：4本)で固定する。



お願い

・レンジフード本体を取付設置する前に、エルボや排気口具をレンジフード本体に取り付けてください。
設置状況により、後からエルボの取り付けができない場合があります。

・必ずネジ4本をしっかりと固定してください。
油が漏れるおそれがあります。

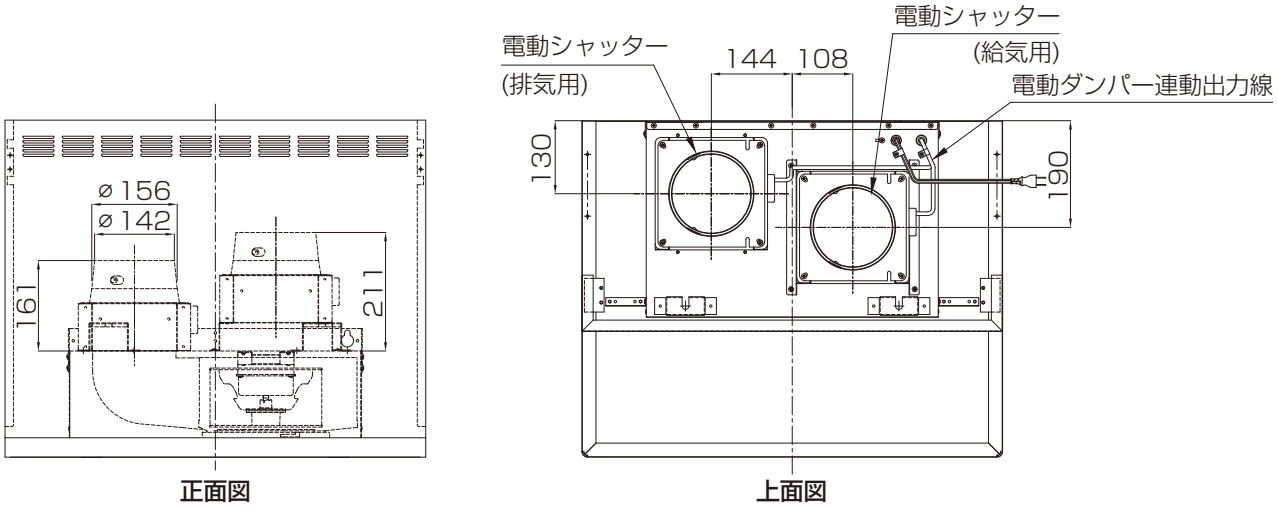
[電動シャッターを使用する場合]

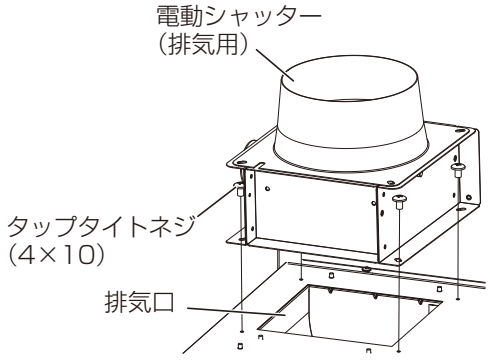
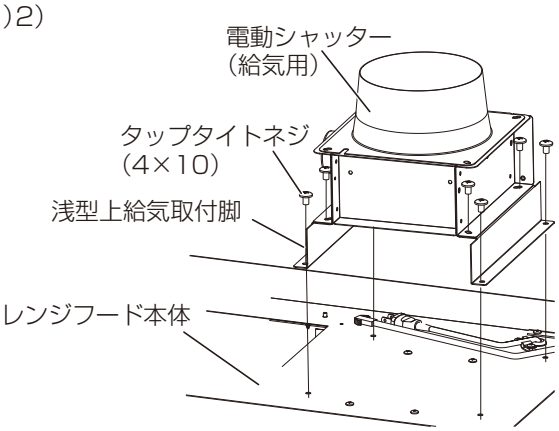
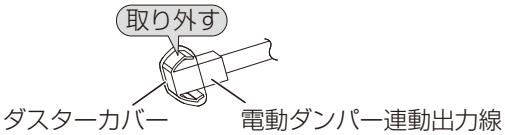
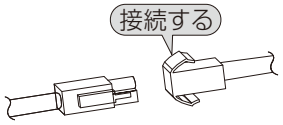
■外形寸法図(電動シャッター使用時)

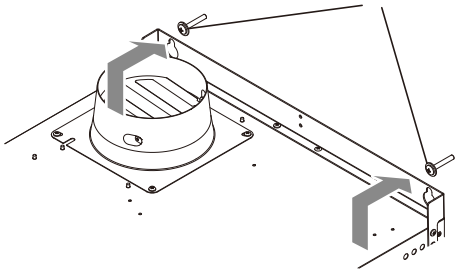
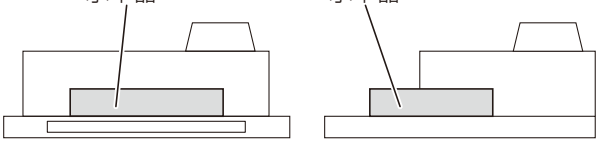
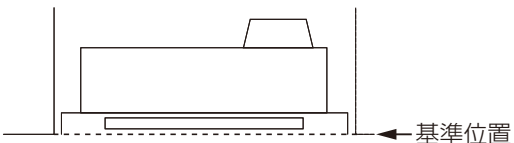
図は左排気仕様になります。右排気仕様の場合は、排気位置、連動出力線などの位置は中心線に対して反対の位置になります。

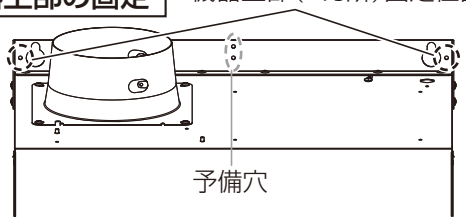
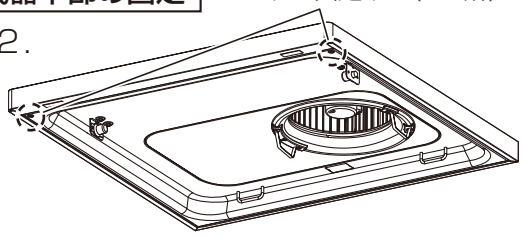
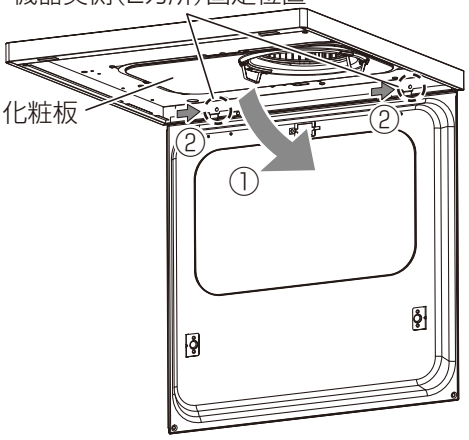
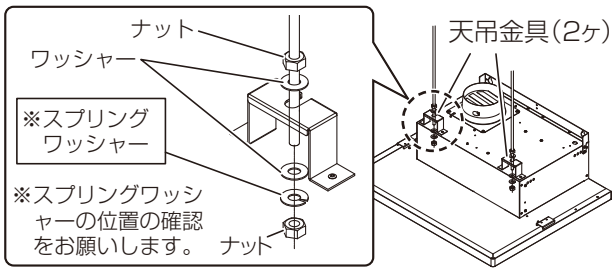
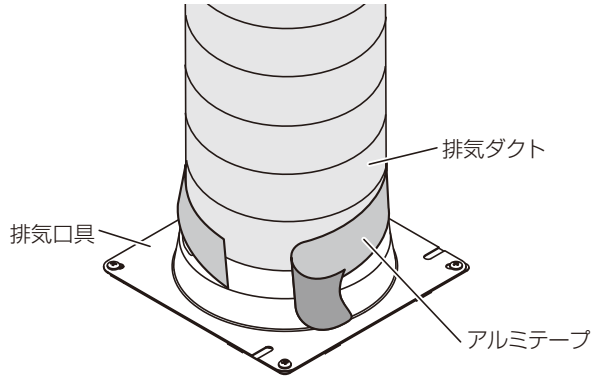
※特注仕様の場合、各寸法が異なる場合があります。

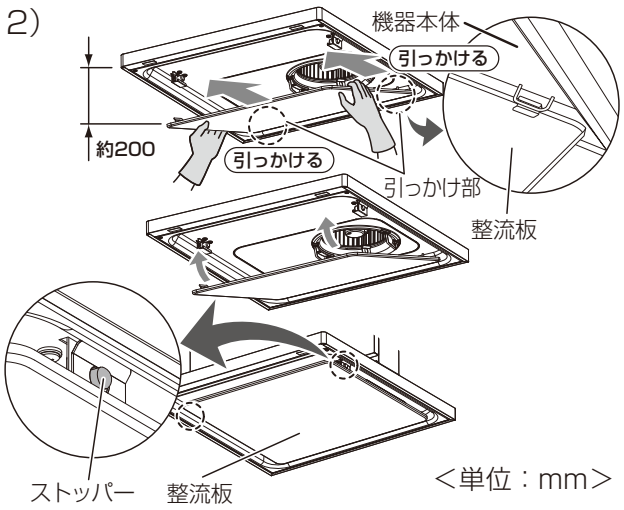
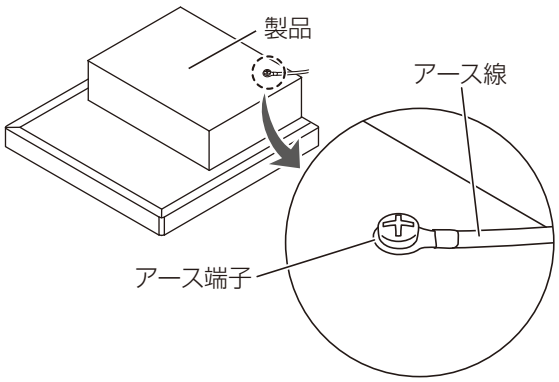
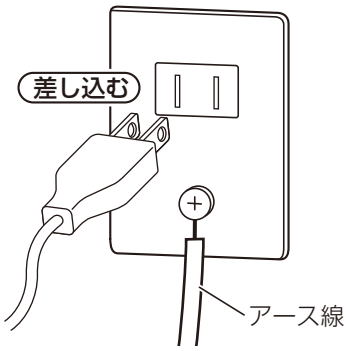
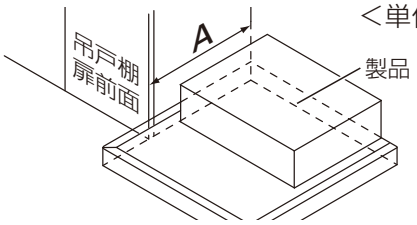
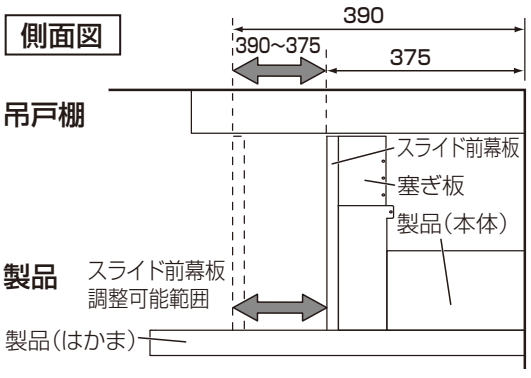
〔単位：mm〕



設　置　手　順	説　明　図
3.電動シャッター **3ー1.電動シャッター(排気用)の取り付け** ・電動シャッターをレンジフード本体に付属のタップタイトネジ(4×10：4本)でレンジフード排気口に取り付ける。 ※取り付け位置については、[外形寸法図(電動シャッター使用時)]を参照してください。 **3ー2.電動シャッター(給気用)の取り付け** 1) 電動シャッターに浅型上給気取付脚を付属のタップタイトネジ(4×10：4本)で固定する。 2) 電動シャッターを付属のタップタイトネジ(4×10：4本)でレンジフード本体に固定する。 ※取り付け位置については、[外形寸法図(電動シャッター使用時)]を参照してください。 ※レンジフード本体から出ているコードを傷つけない様にしてください。 **3ー3.電動ダンパー連動出力線の接続** 1) レンジフード本体の電動ダンパー連動出力線のダスターカバーを取り外す。 2) 排気用、給気用それぞれの電動シャッターの2Pコネクタにレンジフード本体の電動ダンパー連動出力線を接続する。	 1)2)  1)  2) 

設　置　手　順	説　明　図
4.機器の固定 機器の固定を行う前にP.5の外形寸法図で各種寸法を確認してください。 1） 設置面(壁)に座付き丸木ネジをねじ込む。 ※本体下面の位置を決めて、そこから221mmの位置に座付き丸木ネジ(4.1×50：2本)、頭を5mmくらい浮かせて壁にねじ込む。 2） 1)のネジに本体仮留め穴を引っかける。 3） 仮留め穴のネジを増締めする。 1.機器が水平になっていることを確認。 **⚠注意** 必ず守る **水準器などで機器が水平になっていることを確認する** オイルトレーに油がたまらない原因となります。 2.機器下面が基準位置に合っていることを確認。 3.仮留め穴のネジを増締めする。 機器下端が調理機器より800mm以上(調理機器が防火性能評定品の場合は、600mm以上)あることを確認してください。	1） 座付き丸木ネジ (4.1×50)　2本 5mm程度 壁 221 本体下面 (基準位置) 2） 座付き丸木ネジ(4.1×50)　2本  3） 水準器 水準器  正面図 側面図  基準位置 正面図

設　置　手　順	説　明　図
4）機器を付属の座付き丸木ネジ（4.1×50：4本）で固定する。 1.機器上部(2カ所)を固定する。 ・左右の固定位置(外側)に付属の座付き丸木ネジ(4.1×50：2本)で固定する。 ※左右の固定位置(外側)の壁に充分な補強がない場合は、補強のある位置を確認し、予備穴にM4.1木ネジ（現地調達品）で固定してください。 2.機器下部(2カ所)を固定する。 ・フードの固定ネジ(左右2カ所)を外す。 ※フードを傷つけないようにしてください。 ①フードを開く。 ②機器奥側(2カ所)を付属の座付き丸木ネジ（4.1×50：2本)で固定する。 ※ドライバーを使用する時は、機器を傷つけないようにしてください。 ・フードの固定ネジ(左右2カ所)を締め付け、フードを元に戻す。 ※フードを傷つけないようにしてください。 **⚠注意** 禁止 **電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない** ネジが利かなくなります。 5）天吊りの併用 天吊りを併用する場合は天吊り金具の穴(φ12)を使用し、ナットとワッシャー、スプリングワッシャーとで固定する。 ※吊りボルト、ナット、ワッシャー、スプリングワッシャーは同梱されておりません。	4)1. **機器上部の固定**　機器上部(2カ所)固定位置  **機器下部の固定**　フードの固定ネジ(2カ所) 4)2.  機器奥側(2カ所)固定位置  5) 
5.排気ダクトを取り付ける **1）排気ダクトを排気口具に接続する。** 奥まで差し込まれていることを確認してください。 **2）排気ダクトと排気口具をアルミテープなどで固定する。** ・すき間なく、確実にテーピングして固定する。 ・ニップルや鋼管などで延長した場合は、接続部すべてに、すき間なく確実にテーピングして固定する。 **⚠注意** 必ず守る **確実にテーピングして固定する** 排気漏れや油漏れの原因となります。 ※アルミテープは現地調達品です。	2) 

設　置　手　順	説　明　図
6.オイルトレー・整流板の取り付け 1）オイルトレーのテープを外す。 オイルトレーが外れていないか手で確認する。 2）整流板を取り付ける ・整流板を両手で支えながら整流板を約200mm傾けた状態で整流板の引っかけ部（奥2カ所）を機器本体に確実に引っかける。 ・整流板の手前を上に持ち上げ、左右のストッパーにはまるまで押し込む。 **お願い** ・ソフトタッチスイッチの場合 整流板が正しくストッパーに取り付けられないと、自動停止機能により、運転できません。	2）  <単位：mm>
7.アース・コンセントの接続(2芯電源プラグの場合) 1）アース線を機器本体上面に取り付けのアース端子に接続する。その際、アース端子をしっかりとかしめてアース線が抜けないことを確認する。 2）アース線をアースターミナルに接続する。 3）交流100Vであることを確認してから、コンセントに電源プラグを確実に差し込む。 ※アース線は現地調達品です。 **⚠警告** 必ず守る **電源コードは本体や排気エルボ、排気ダクトと離して固定する** 火災などの重大な事故の原因となります。 詳しくはもよりの消防署に問い合わせてください。 禁止 **電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない** 感電・ショート・発火の原因になります。 禁止 **延長コードは使わない** 発火による火災の原因になります。 禁止 **コンセントや配線器具の定格を超える接続はしない** たこ足配線などで定格を超えて発熱し、火災の原因になります。	 
8.スライド前幕板の固定 **⚠注意** 必ず守る **ステンレスタイプには、保護シートが貼り付けてあるため、ていねいにはがす** 無理に引っ張ると変形やけがなどの原因となります。 **■スライド前幕板と吊戸棚前面との面合わせについて** ・**吊戸棚奥行寸法Aが390～375mmの場合** ※スライド前幕板と吊戸棚前面が合います。 ・**吊戸棚奥行寸法Aが375mm未満の場合** ※スライド前幕板と吊戸棚前面が合いません。 ※スライド前幕板(製品)が手前に出ます。	<単位：mm>  

設　置　手　順	説　明　図

8ー1.塞ぎ板の固定

1）塞ぎ板上(左・右)を塞ぎ板下に差し込む。

2）付属の**塞ぎ板下(左・右)**をaまたは、b寸法上下2カ所の同じ寸法位置に固定する。
※下表の[aまたはb寸法目安]を参考

2)ー1　付属のタップタイトネジ(M4×10)で製品に固定する。(左右各1カ所)

2)ー2　付属の丸木ネジ(3.8×13)で側面のキャビネットや壁に固定する。(左右各1カ所)

奥行寸法A	a寸法目安	b寸法目安	扉合わせ
375mm未満	ー	355mm	合わない
375mm	20mm	ー	合う
380mm	20mm	ー	
385mm	20mm	ー	
390mm	20mm	ー	

3）**塞ぎ板上(左・右)**を天井に当たる位置まで伸ばし、cまたはd寸法の上下2カ所を下表の[cまたはd寸法目安] を参考に同じ寸法位置に固定する。

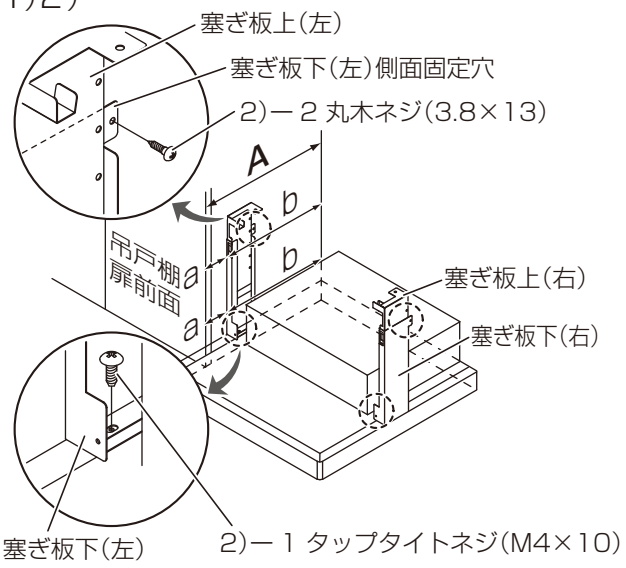
3)ー1　付属の丸木ネジ(3.8×13)で天井に固定する。(左右各1カ所)
※各市・町・村の条例などにより、天井に固定できない場合は、塞ぎ板上側面(左・右)の最上部にあるe穴にて、側面のキャビネットや壁に固定してください。

3)ー2　付属の丸木ネジ(3.8×13)で塞ぎ板上の最下部の穴を使用し、キャビネットや壁に固定する。(左右各1カ所)

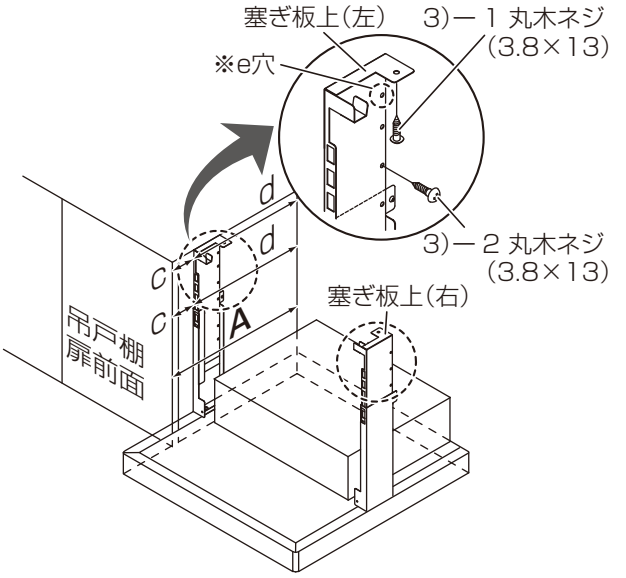
奥行寸法A	c寸法目安	d寸法目安	扉合わせ
375mm未満	ー	355mm	合わない
375mm	22mm	ー	合う
380mm	22mm	ー	
385mm	22mm	ー	
390mm	22mm	ー	

4）塞ぎ板上に付属のすき間テープを貼る。
・塞ぎ板上の長さfにカットしてから塞ぎ板上前面(左右各1カ所)に貼り付ける。
※付属のすき間テープ1本の長さは、塞ぎ板上左右2本分の長さになります。

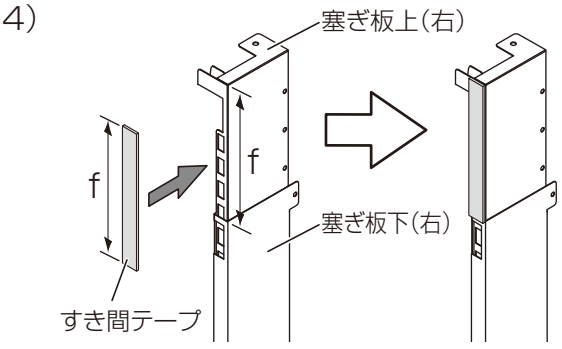
1)2)



3)



4)



設　置　手　順	説　明　図

8ー2.スライド前幕板の高さを合わせる

1）付属のスライド前幕板の取り付け位置を確認する。

※機器の前面を化粧する板です。
化粧面は十分に養生し、キズにならないようにする。

2）付属の引っかけ金具（左・右各1個）を付属のタップタイトネジ（M4×10：4本）で固定する。

⚠注意

禁止 **電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない。**
ネジが利かなくなります。

3）スライド前幕板の寸法B（左・右それぞれ）を決める。

・設置高さCを確認する。（左・右それぞれ測定）
・3mmのすき間を設け、寸法Bを決める。
B左=C左−3
B右=C右−3
調整可能高さC=410〜695

4）スライド前幕板を前幕板高さ寸法Bに固定する。

・スライド前幕板裏面に固定されているタップタイトネジ（M4×10：2本）を取り外す。
・スライド前幕板をスライドさせ、左右とも前幕板高さ寸法Bに合わせる。
※寸法を合わせる際、前幕板裏面には50mmごとに△の切り欠きがあり、寸法の目安にしてください。最上段の△を合わせると前幕板は413mmです。
・取り外したタップタイトネジ（M4×10：2本）で固定する。

⚠注意

必ず守る **ステンレスタイプには、保護シートが貼り付けてあるため、ていねいにはがす**
無理に引っ張ると変形やけがなどの原因となります。

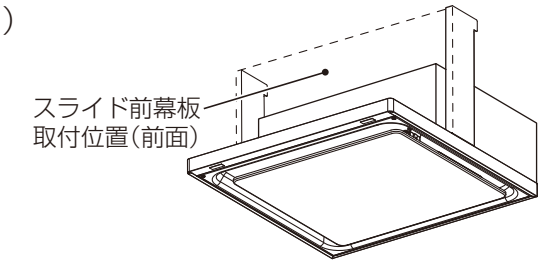
禁止 **電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない。**
ネジが利かなくなります。

5）スライド前幕板裏面を固定する。

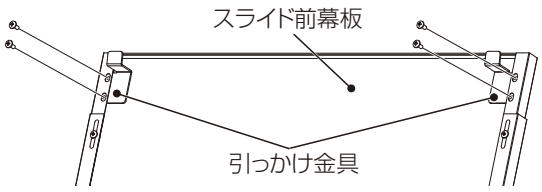
・スライド前幕板の高さを合わせたあと、スライド前幕板裏面の上板と下板をアルミテープで固定する。

※アルミテープは現地調達品です。

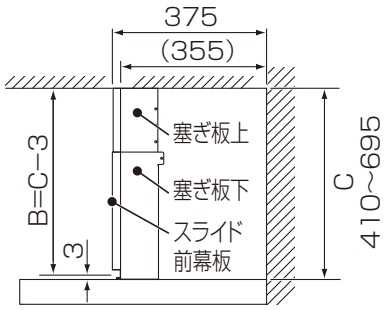
1）



2）

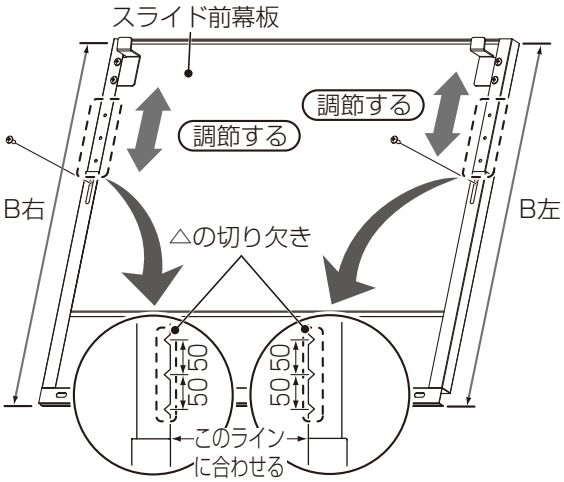


3）

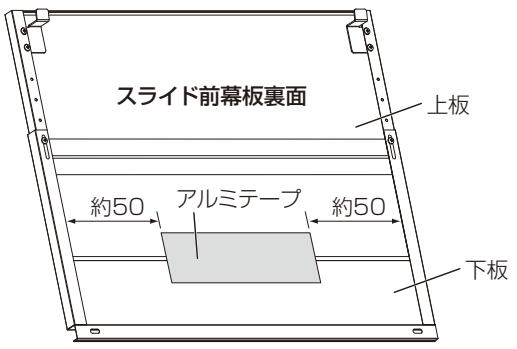


スライド前幕板高さ調節範囲

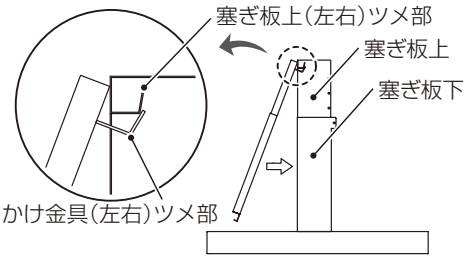
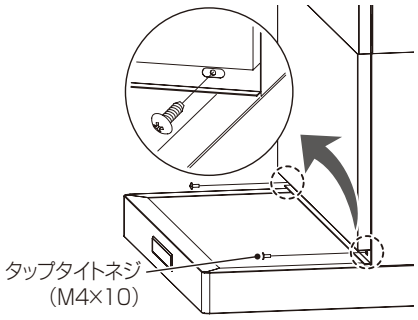
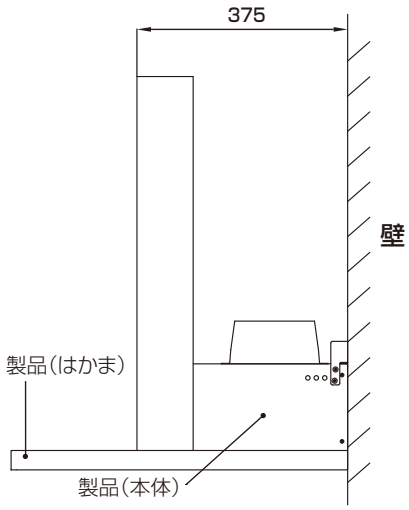
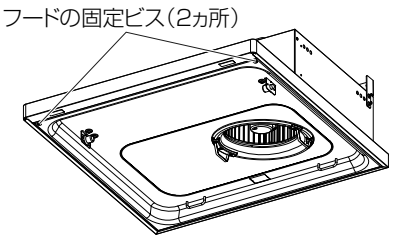
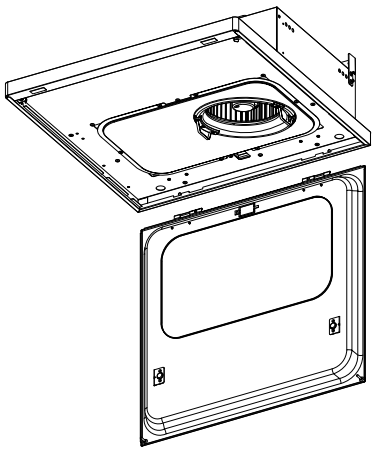
4）

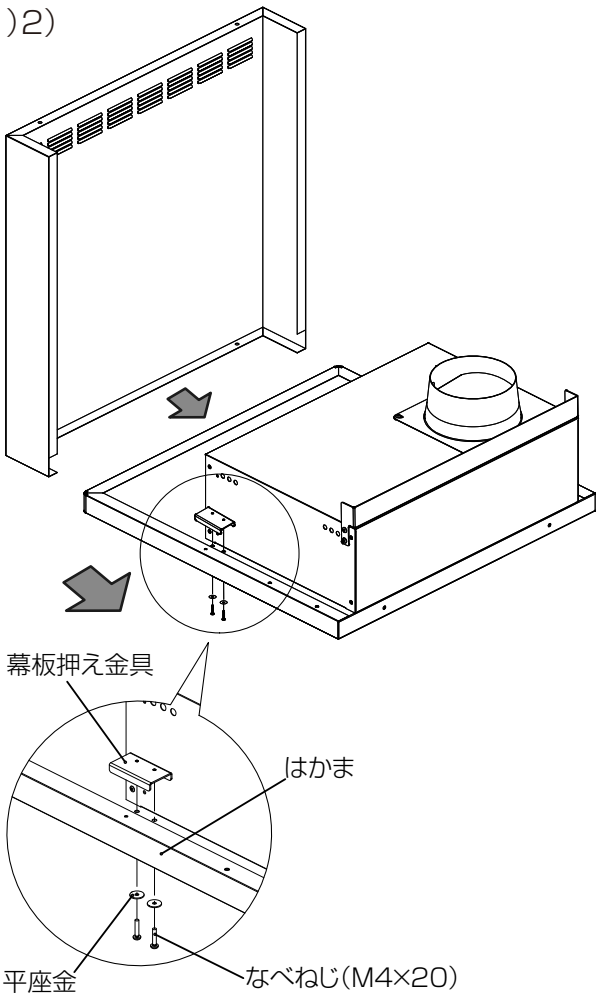
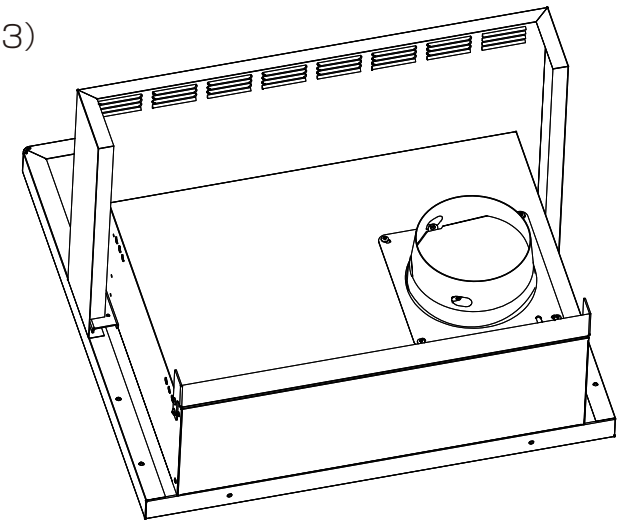


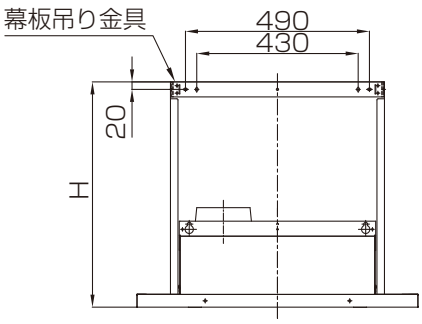
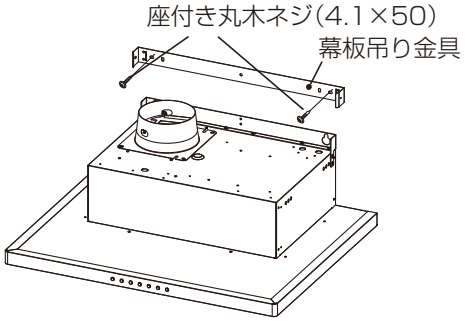
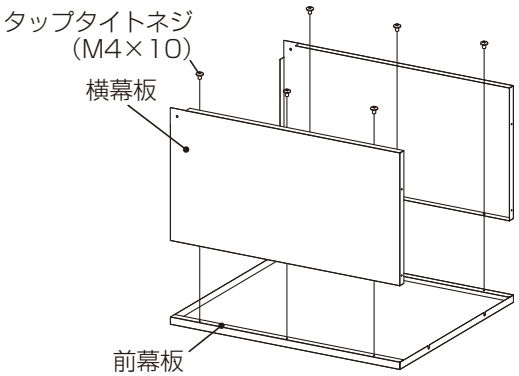
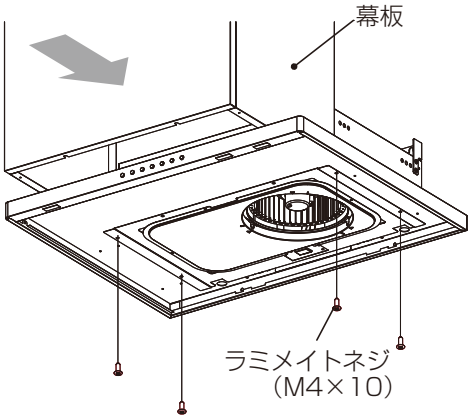
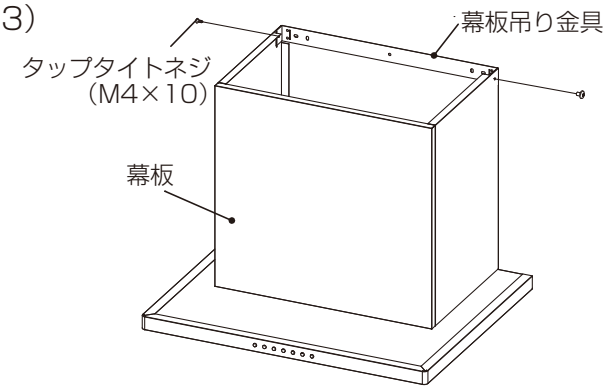
5）



※アルミテープの固定は、前幕板の両端から約50の位置で貼ってください。

設　置　手　順	説　明　図
8ー3.スライド前幕板の取り付け 1）固定された塞ぎ板上（左右）のツメ部にスライド前幕板上部の左右に取り付けた引っかけ金具を差し込みスライド前幕板を取り付ける。 2）付属のタップタイトネジ（M4×10：2本）にてスライド前幕板を固定する。	1）  2） 
9.幕板の固定（固定幕板仕様A） **⚠注意** 必ず守る **ステンレスタイプには、保護シートが貼り付けてあるため、ていねいにはがす。** 無理に引っ張ると変形やけがなどの原因となります。 **■前幕板の取り付け位置について** 前幕板の前面は設置面（壁）から375mmの位置になる様に取り付けてください。 ※375mm以下は取り付けることができません。	
9ー1.フードの取り外し ・フードの固定ビス（左右2カ所）を外す。 ※フードを傷つけないようにしてください。 **⚠注意** 禁　止 **電気ドライバー、インパクトドライバーなど絶対に使用しない。** ネジが利かなくなります。	 

設　置　手　順	説　明　図
9ー2.幕板の取り付け 1）幕板押え金具をはかま内側から平座金をはさんでなべネジ（M4×20-4本）で仮止めし、はかまと押え金具の隙間を3～5mm程度にする。 2）前方から押え金具とはかまの隙間に前幕板を差込み必要な寸法になるように調整する。	1)2) 
3）幕板押え金具のネジをしっかり締めて幕板を固定する。	3) 

設　置　手　順	説　明　図
10.幕板の固定(固定幕板仕様B) **⚠注意** 必ず守る **ステンレスタイプには、保護シートが貼り付けてあるため、ていねいにはがす。** 無理に引っ張ると変形やけがなどの原因となります。	［背面取付図(固定幕板仕様B)］ 
10－1.フードの取り外し ・P.19を参照してフードを取り外す。	
10－2.幕板吊り金具の固定 ・設置面(壁)に幕板吊り金具を座付き丸木ネジ(4.1×50：2本)で固定する。 ※幕板吊り金具の取り付け位置は上記の"背面取付図"を確認してください。	
10－3.幕板の組み立て ・前幕板に横幕板をタップタイトネジ（M4×10：6本）で固定する。	
10－4.幕板の取り付け 1）組み立てた幕板を製品前方から差し込む。 2）製品下面からラミメイトネジ(4×10：4本)で幕板を固定する。	1)2) 
3）幕板上部を取り付け穴を使用してタップタイトネジ(4×10：2本)で幕板吊り金具に固定する。	3) 

設置後の点検確認

◎チェックリスト

点検項目	点　検　内　容	参照ページ	チェック
設置条件	機器の設置条件は適切ですか。	6~9	
製品の固定	機器本体の取付位置は適切ですか。	9・14	
	機器の設置は水平になっていますか。	14	
電気接続	交流100Vに接続しましたか。	16	
	アースターミナル付コンセントに接続しましたか。	10・16	
	アース線を接続しましたか。(2芯電源プラブの場合)	10・16	
	コンセントや配線器具の定格を超える接続をしていませんか。	16	
	たこ足配線や延長コードで接続をしていませんか。	16	
排気ダクト接続部	排気ダクトとの接続箇所に排気漏れはありませんか。	15	
試運転	試運転の手順に従って作業を行ってください。	22	

試運転

◎試運転を行う前に、機器用の屋内ブレーカーを『入』にしてください。


接触禁止

運転中は危険ですから羽根の中に指や物を入れないこと。
けがをしたり、故障の原因となります。

1 本体の各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
2 運転時、各速調の排気が正しく行われていること。
3 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
4 取付け又は設置上に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

WATANABE
Manufactory Company Limited

株式会社　渡辺製作所

〒104-0031　東京都中央区京橋1－6－11
カンケン京橋ビル5F

■東京支店　TEL(03)3538－6690　FAX(03)3538－6691

K4202160